





やり惜くかつた：

これから村づくり

レヂストロに産振會生る

## 街路、年々良くなり

近代都市へ前進する聖市

十七日の市會では道路に關する種々の法案が通過したが、これによつて中央區、アクリマン區とイビッカ區に通ずる二大道路が改善されることになる。即ち、アクリマン區とイビッカ區に通じる二大道路が改善されることになる。即ち、アクリマン區とイビッカ區に通じる二大道路が改

## 運動會や敬老會

アンドラヂーナ便り

アンドラヂーナ父兄會では

第一回長野原常義、第三回長立

花保五郎、第四回佐藤一

孝第五回平塚金之助、

第六回長上原常義、第五回

高橋嘉太郎、第三回長立

# NOTÍCIAS DO BRASIL

**Diretor Responsável** SANEMI HARADA

Diretor Adminis. e Proprietário SEISAKU KUROISHI

Fundado em 1917

Redacção, Administração e Oficina: Rua Caramuru, 63 — Caixa Postal, 3148 — São Paulo

N.º 2.961

ANNO XXXIII

SÃO PAULO, Quarta-Feira 22 DE FEVEREIRO DE 1950

Circula às Segundas, Quartas e Sextas

南國の春　白浪高・太平洋の黒潮が  
脚下に寄せ来る南國土佐、短い冬も過ぎれば暖き陽春である。こゝは高知の某小学校、無邪氣な兒童達は皆喜々として家路を急ぐ。日高肇もその一人だつた。  
「いい天気だなあ」とつぶやきつゝ皆の後から校門を出た彼は、右に曲つて我家へと歸る途中、毎日通じ神社の横へ出す。市内とはいゝこの通りは森をして人通りもない。  
「肇さん、待つて来たよ。」大きな杉の樹陰へ呼んで千年杉といふ巨木の所で老子は微笑つてゐた。  
「やあ遅くなつた、小使さんとこへ一寸用があつたものから。」肇も微笑つて近付いた。  
「あなたが途中で迷子になつたんちやないかと思つたのよ。」  
「何馬鹿な、ハラハラヘッさを行かう！」  
二人は肩を並べて歩き出した。  
この神社は高臺にあるので、町家をへだてゝ高い海が見える。沖に浮んだ白帆舟がまるで繪に書いたようだ。  
肇の家は町外れにある連居屋だつた。以前は相當広くやっていたが、父か入時代の波に押されて家は傾き、今は連居屋とは名稱をつけ、一台の馬車がその上のみである。  
恵子の家石田に數代繼承され、大きな蔵元で、演じ日高肇の父と恵子の父は年が離れて立つて居るのである。お互十三の二人。また愛だの懇だのといふ春心なく、唯友愛のみ持つ彼等。「あのわ肇さん、お闊りの小母さんね、私に『恵子さんは、肇さんとともに仲がいいね』だつて、ふつぶつ